

■恩田木工(民親) 多難な時代に、松代藩の財政改革へ取り組むも早世、事績を記した「日暮硯」が後世に影響を与えた。

おんだもく

隅田川の桜・1717= 天災・人災や幕府への抛出が続いて財政難の信濃国松代で、藩主真田家の家老恩田民清の子に生まれる。

懐徳堂公認・1726= 9歳：

享保大飢饉・1732=15歳：

昆陽蕃諸考・1735=18歳：家督を継いで、知行1000石。

🚢船出没始 1739=22歳：城代となり、

公事方御定書1742=25歳：この年、藩が江戸期最大の大洪水“戊の満水”に見舞われ、幕府から大借金するも、藩主真田信安や勝手役原八郎五郎はじめ側近の遊蕩は収まらず、財政はますます悪化、富豪八田家からの累積借入も膨大になる。

徳川吉宗隠居1745=26歳：

梅岩没・・・1744=27歳：

菅原伝授十・1746=29歳：家老となる。

この間、藩士への扶持米の不払いも多くなり、  
・・・・・・1749=32歳：藩士らが普請奉行に訴える騒ぎとなり、とりなして収める。  
・・・・・・1750=33歳：諸藩の財政再建を請け負いながら松代にやって来た浪人田村半右衛門が、この年勝手役につき、足軽のストライキも起こるなか、原八郎五郎に罰金を課して家屋敷を取り上げ、八田家にも御用金を命じる一方、農民に増税をかける新法を発したため、

徳川吉宗没・1751=34歳：農民が一揆して強訴を起し、“田村騒動”となり、田村半右衛門は逃亡、江戸で処罰される。

薩摩藩工事・1753=36歳：

源内物産会・1757=40歳：\*勝手御用兼帯を命じられると、  
\_親類縁者・妻子と絶縁して職務に専念するなどして、政治への信頼を回復した上、農民への説得に努めて月割上納を実現し、小物成(雑税)は大幅に整理するなどして、財政再建を推進して行くが、

大岡忠光没・1760=43歳：

・・・・・・1761=44歳：この年、\_上田藩で最大となる宝暦一揆が起こり、

・・・・・・1762=45歳：\*続いて飯田藩最大の千人講騒動が起こるなど、信濃で一揆の嵐吹き荒れるなか、道半ばで病没した。  
藩士馬場正方がその事績を記した「日暮硯」を遺す。